

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立鳶尾小 学校

校長名 永桶 千秋

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	---

学校教育目標	学校経営の方針
心豊かに 共に未来をたくましく生きる児童の育成 《自分に自信と誇りを》	すべての子どもが輝くために 家庭・地域と協働する教育活動の展開を目指す。

今年度の重点目標

- 1 対話を基盤とした児童・家庭・地域との信頼関係を構築し、地域の人材・資源を積極的かつ計画的に活用した教育活動を推進する。
- 2 「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けると同時に、長期的展望に立った「豊かな心を育むための教養」を身に付ける。
- 3 多様な価値観にふれ、時間や国境を越えて様々な人々とつながる読書活動を推進する。
- 4 自然体験や栽培活動などを通して、いのちや自然を大切にする心情や、総合的な生きる力を育む。
- 5 誰もが人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を認め合う、インクルーシブ教育を推進する。
- 6 教職員が子どもたちとしっかりと向き合えるような時間の確保、新しい教育課題について学ぶ時間の確保、心身の健康維持のため働き方改革を推進し、お互い助け合い、チームとして教育活動を行う風通しの良い職場づくりを目指す。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
特色ある学校づくりとして、学校農園を活用した自然体験（栽培活動）に取り組んでいる。	1・2・3	生活科や理科、総合的な学習の時間、委員会活動(栽培委員会)において農園での栽培活動に取り組む。	生活科や総合的な学習の年間計画に栽培活動を位置づけ、活動を進めてきた。季節ごとに育てる野菜や植物を変え、土づくりから栽培まで一貫して活動する中で、自然の豊かさや厳しさを学んだ。一方で、教員の指示されるままに児童が活動していた所があるので、児童が主体的になれる活動に変えていきたい。	学年ごとの生活科、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直すとともに、より児童が自分事として栽培活動を捉えられるように植えたい物を話し合わせたり、考えさせたりして、栽培活動を行っていく。
学校の環境が行き届いており、児童が快適で安全に学校生活を送れるようになっている。	1・2	定期的な安全点検を繰り返したり、夏季と冬季に職員での物品廃棄や整理を行ったりすることで、児童が安全に学校生活を送れるように努める。	安全点検で不具合が発生した場合はすぐに職員で修繕したり、学校施設課に依頼して可能な限り児童が安全に学校生活が過ごせるようにしてきた。また、細かく備品点検や不要な物品の廃棄等を行うことで、校内の整理整頓が進んできた。	児童が安心・安全に学校生活を送れるように今後も引き続き、環境整備・安全確保に努めていきたい。また、高学年を中心に児童にも安全面で危険箇所はないか、確認させるようにもしていきたい。
学校では、PTAと地域との連携を積極的に進めている。 学校はコミュニティスクールとして、地域の教育力を日常の指導の中に活用するように意識を高めている。	2・3	PTAと密に連携を取り、計画的に活動を進める。また、地域学校協働活動が少しずつ進められるように教職員やPTA、学校運営協議会等で周知したり、具体的なアイデアを出したりしていく。	授業参観後にPTA主催のイベントを開催し、全校児童が参加する中、多くの保護者が参観することができるようにした。また、今年度からPTAの学年親子親睦会を行えるようにして親子で楽しむことができた。水泳ボランティアや農園ボランティア、世代間交流会などにも多くの保護者や地域の方に参加してもらうことができた。教職員全員参加の学校運営協議会等も行い、それぞれが顔見知りになる中、地域と実施できる活動に見通しを持つことができた。	児童数の減少、学年の単級化が進む中でのPTA活動の持続可能な継続を模索していきたい。また、地域学校協働活動として、学校、地域、PTAと連携した活動を行っていく。

鳶尾小の学区は放課後や休みの日に安心して遊ぶことができる。	2・3	地域や行政と連携し、放課後子ども教室や児童館の積極的な利用を促す。自治会長懇談会を年2回実施し、地域の方々の情報交換を定期的に行い、学校と地域が協働して児童の育成に努める。	鳶尾小の学区は、豊かな自然や数多くの公園などに恵まれ、安全・安心に放課後や休みの日に過ごすことができると感じている、児童や保護者が非常に多い。また、児童館や放課後子ども教室の利用も非常に多い。課題としては、公園での遊び方やごみの片付け、交通マナーなどがあがった。毎日の打ち合わせの中で、放課後の遊び方や交通マナーについては逐次確認し、各教室で指導を行った。	PTA行事や地域の行事など、学校運営協議会や公民館とも協力しながら児童が安心して安全快適に過ごすことができるようにしていく。
学校全体で情報が共有され、教職員主体で課題に対応している。	1・2・3	校務上の連絡や児童支援案件などを全職員にもれなく共有したり、学校の課題を検討したりできるようにする。	校務支援システムを活用して連絡事項を全職員が随時確認したり、夕方の打ち合わせの中で共有したりした。児童支援案件を所定のシートに入力し、月に2回の児童支援連絡会で共有し、対応等を考えられるようにした。学校評価では、ICTを活用し、各意見を全職員が相互参照したことで、課題を共有したり、改善に向けて話し合えたりした。	ICTを活用した情報共有の仕組みを今後も推進していく。児童支援案件については、共有したことを学級で確認し、徹底できるように気を付けていく。
児童は進んであいさつができている。	1・2・3	PTAや児童会と連携し、学期ごとのオアシス運動を進める。日頃から校外外でのあいさつを児童に指導する。	PTAと連携して朝のオアシス運動を進めることであいさつができる児童が増えてきた。児童アンケートや保護者アンケートでもあいさつができるようになったと実感している。	次年度も引き続き、PTAとのオアシス運動や日頃のあいさつを指導していく。
教職員は、児童を気にかけたり、話を聞いたりしてくれる。	2	学期ごとにクラス担任との面談や気になる児童へのSCやこころスマイル支援員との面談等を行い、児童の小さな変化に気付いたり、いつでも相談できたりする体制を整える。	高学年で教科担当の先生が多く入り、複数の目で児童の様子を捉えることができたり、児童支援連絡会等で児童の情報を共有し、支援の方向を明確にしたり、児童との面談等を行ったりすることで高学年を中心に児童が落ち着いて学習に臨めるようになった。	落ち着いて学習に臨めることが多くなってきたので、さらに児童が主体的に学習に取り組めるようにしていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校教育目標の具現化に向けた取組について理解していただき、概ね達成できていることを評価していただいた。児童のあいさつや教師と児童との関係の良さなどを評価していただいた一方、家庭学習への児童と保護者、教師の認識の差が気になるとの話があった。地域学校協働活動については、地域や学校の課題や求めていることのニーズから進めたり、大人から子どもとの関係を作っていったりしたいとの話があった。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標に基づき、学校として組織的に教職員の創意工夫を生かしなが教育活動に臨み、児童が落ち着いて授業や行事に取り組み、成果を上げることができたと考える。次年度はさらに、児童の主体性を生かしながら、今年度の取組を一層充実させ、豊かな自然と地域の教育力を生かした地域に開かれた学校づくりを目指していきたい。